

# 緑地探訪

## ベネッセアートサイト直島の「地」づくり (香川県香川郡直島町)

鎌田あきこ

株式会社ユニットタネ (info@unittane.com)

直島は瀬戸内海に浮かぶ島で、島の南エリアにはベネッセアートサイト直島が運営する複数のホテルや美術館がある。建物内にアートが展示されるのみならず、突堤や砂浜、断崖などの屋外に常設されているのが特徴で、さらには、場所に合わせて作品が制作される「サイトスペシフィック・ワーク」の先駆となった地でもある。つまり、アートと周囲の景観とは切っても切り離せない関係でそれぞれが存在している。

2017年より始動した「直島ランドスケーププロジェクト」の監修者として私たちは直島に関わり始めた。アート=図は、自然=地(じ)との「対比という調和」により浮かび上がると捉え、植生や植栽等に対してなるべく人為を感じさせない「地」の管理をおこなうことを提案し、伴走してきた。法面緑化の工法や材料選択もその延長線上にあるといえる。

プロジェクトでは風化花崗岩がマサ土化し崩れるメカニズムや四国のまあるい山について学習し、崩落を自然の節理として受け入れざるをえない視点を得た。ごく小規模な崩落は数年前から起こっていたらしく、当時斜面の所々に植生シートが張られていたが、シートの裏はマサ土がずり落ち定着しない。応急処置にも指針が必要だと思っていた矢先、2017-18年の大雨で、数回にわたり崩落が起きた。

修復工事には「長繊維補強土工法+鉄筋挿入工」が採用されたが、エリアの景観資源の価値に重きを置いた重要な決断だったといえる。さて緑化については、緊急性から外来牧草と在来種の混播で環境省の許可が下りていたが、アートの背景となる「地」の創出のため、ささやかでも直島由来の種子を混入したいと考えた。作業に当たっては、種子の採取や保管に関する既往の文献を参考に試行錯誤した。文献にない植物も多く、これらは試験的に蒔いてみたりもした。こうして多くのスタッフと一緒に島の果実を採りに山へ入り、実から種子を精選し、事務所の倉庫で保管し、吹付材に混入してもらった一連の取り組みが出来たことは成果だといえる。実際には、

購入した国産・在来種子もろとも発芽しないという過酷な猛暑の春にあたってしまい、一面のバミューダグラスフィールドとなった。異常気象には抗えないが、関係者間で原因を考察し次のステップにつなげようとした項目もある。トレーでの発芽試験もその一つで、2023年の追加崩落修復に並行して実施し、導入した全7種が発芽した。現場法面でも一定の成果を得られ、今後の遷移についても見守っていききたい。

2025年もまた別の場所で小規模崩落があったが、今度は別レイヤーの価値創造課題と併せて取り組みを拡げようか、と模索中である。こうして、場所ならではの法面緑化方法確立への追及は、まだまだ続いていくように思う。

ベネッセアートサイト直島ではほかにも、かつての早期緑化造林によるモリシマアカシアの強風による倒木、マツ枯れ、ニセアカシアの砂浜進出など、植生に関連した課題も多い。2017年当初より進めてきた「地域性種苗生産」も今年で10年目を迎え、アカシア伐採後の裸地化した地面に直島由来の苗を植える取り組みも行っている。

「図」と「地」は反転するという<sup>2,3)</sup>。アートを通じて直島の風景が再認識される、その時、それに応えられるだけの「その土地らしさ」を持ち続けていられればと願っている。

### 引用文献

- 1) 直島ランドスケーププロジェクト. <https://benesse-artsite.jp/lspj.html>. (参照 2026年2月24日)
- 2) 鎌田あきこ (2022) 風景の地(じ)をつくり作品を支える「直島ランドスケーププロジェクト」の取り組み, *Benesse Artsite Naoshima Periodical Magazine APRIL 2022*, ベネッセアートサイト直島: 10-15.
- 3) 西田正憲 (2014) 深遠な風景へ、そして、豊かな心へ, *Naoshima Note* 8月号(NO.14), ベネッセアートサイト直島: 8-11.



写真：左 2020年8月(崩落修復後2年目)、右 2025年8月(法面の中央付近は2023年追加崩落修復箇所)